

ありがとう深江丸 <企画展2022>

ふね遺産 進徳丸 <企画展2021 継続>

深江丸は、本学附属の練習船です。海事科学研究科キャンパスが位置するゆかりの地、深江にちなんで名付けられ、歴代その船名が受け継がれてきました。神戸高等商船学校の汽艇に始まり(深江丸(I))、戦後は神戸商船大学において、大学独自の教育研究のための実習船として建造されます(深江丸(II))。その後も昭和43年進水の深江丸(III)、昭和62年進水の深江丸(IV)と更新を続け、常に新たな時代に適応した海技者の育成、調査研究、一般市民への海事や科学の普及啓発に活躍したほか、近年は災害支援も視野に入れ活動をしてきました。

2022年3月、大学の最新練習船として海神丸が就航し、深江丸(IV)は就航以来、35年の長きにわたる活動に終止符を打ちました。本企画展では昭和から平成、令和の時代を運航した深江丸(IV)の35年間の活動を中心に、海事教育・研究・普及の様相をご紹介します。

またあわせて、日本の海事史上重要な船船として“ふね遺産”に認定された戦前の練習船、進徳丸について、昨年2021年度の企画展を再構成してご紹介いたします。



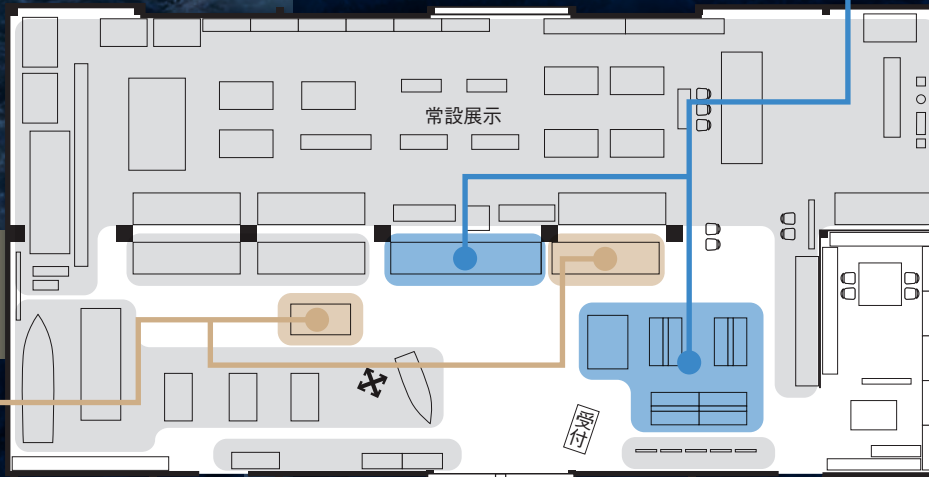
汽艇
深江丸(I)
【神戸高等商船学校】

深江丸 Zone

- ◆深江丸(I) 総トン数:30.79t
進水:昭和2(1927)年1月23日
- ◆実習船深江丸(II) 総トン数:150.86t
全長:31.83m
進水:昭和33(1958)年2月6日
- ◆実習船のち練習船深江丸(III) 総トン数:361.71t
全長:37.00m
進水:昭和43(1968)年2月28日
- ◆練習船深江丸(IV) 総トン数:449.00t
全長:49.95m
起工:昭和62(1987)年4月14日
進水:昭和62年7月10日
就航:昭和62年10月14日
所有者:平成16(2004)年4月1日
文部科学省から神戸大学へ



実習船
深江丸(II)
【神戸商船大学】



実習船のち練習船
深江丸(III)
【神戸商船大学】



練習船
深江丸(IV)
【神戸商船大学・神戸大学】

進徳丸 Zone



練習帆船・汽船・陸揚げ保存船
進徳丸
【神戸高等商船学校】

- ・就航時の総トン数:2518.42t 全長:109.10m
マスト高さ:海面から55m
進水:大正12(1923)年12月9日
就航:大正13(1924)年2月25日
解体:平成8(1996)年3月
※平成7(1995)年1月17日早朝に発生した阪神・淡路大震災で東側至近護岸が崩壊し設置地盤に甚大な被害
- ・総航程:53万海里(98万km)
- ・海の若人育成数:11,900人
- ・陸上げ後の利用者数:10万人
- 船名の“進徳”は大正12(1923)年9月1日の屋に発生した関東大震災に際し、11月10日に発布された国民精神作興に関する詔書の一節「智徳並進より」。



陸揚げ保存の進徳丸と深江丸(III)



練習船
海神丸
総トン数:892.00t
全長:56.98m
就航:令和4年3月23日
【神戸大学】